

北地域後援会は我孫子1~4・久寺家・台田・つくし野・並木・根戸・布施のエリア



しらかば北

発行責任者
井上文夫

3月議会

国保税引き上げ・ 街づくり・教育問題

国民健康保険税の 引き上げ

3月議会は次年度の予算を決める重要な議会です。今議会の焦点は国民健康保険予算になりました。

必要金額は3億7千121万円です。市は一般会計から必要金額の51・1%の約1億9千万円を繰り入れる一方、残りは加入者の保険料引き上げで充当する予算案になっていました。

日本共産党市議団は検討した結果、昨年度からの光熱費と諸物価の異常な高騰により生活がひっ迫している今日、増税は認められないとして、この引き上げ案に反対しました。

また、一般会計から全額を繰り入れるべきだとし、1億9千万円の繰り入れの予算案にも反対しました。

採決の結果は 我が党以外は原案に賛成し、国保税は1人当たり約7500円の負担増となりました。

市の街づくり基本 計画の練り直しを

次に、1月の市長選挙で無投票当選となった星野市長の来年度の施政方針が注目されました。

「4期16年で培った経験と育んできた人とのつながりを活かしながら、人口減少や少子高齢化、公共施設の老朽化などの課題に的確に対応し、市政運営に全力で取り組んでいきます」と表明しましたが、今後4年間において、目新しいものはなく、市の長期ビジョンとすべき街づくりは遅々として進んでいません。

そこで、日本共産党の岩井康議員は「これからの我孫子市について」として、商業・観光の政策から問いました。

答弁では、都市計画マスタープランにおいて、手賀沼をコンセプトにして実現できるように進めてきた。また市長が選挙で掲げた「コンパクトシティ」を指すことについては、すでに答えているとの答弁でした。

しかし、我孫子市の西と東ではあらゆる点で地域格差が生じており、今一度抜本的な分析と早急な基本計画の練り直しが必要と思われる。

再度教育問題を 質問

私の質問は、今回も教育問題を取り上げ、特に教員の未配置・不足の是正、働き方改革、不登校の減少策等を質しました。

本来県と国が負うべき事柄ですが、市と今後の方策を共に考えようと、尋ねました。

また、教員の残業時間が100時間を大きく超える勤務状態では過労による病欠や、教員になる人も減少するとの市民の声を代弁し訴えました。現場での急な改善が求められます。

最後に市長に市の教育方針に沿って、より一層子どもたちに寄り添った教育行政をお願いして質問を締めくくりました。
(市議会議員 野村 貞夫)

21世紀の森と広場で 初夏の自然を楽しみませんか

5月12日（金）
我孫子駅改札前に
10時集合

我孫子 — 新八柱（新松戸乗換） — バス
交通費 各自 約1000円
飲み物・お弁当持参

雨天中止

この後援会ニュースのカラー印刷を継続するために読者の皆さまのご支援をお願い申し上げます。
連絡先 04-7179-8230 えすみ

花火

多くの自治体が自衛隊に住民基本台帳の満18歳、満22歳の個人情報（氏名、住所、生年月日、性別）の写しを、本人に知らせぬまま「提供」していることをご存じだろうか▼「提供」されたくない場合は「除外申請」ができるとしているが、そもそも「提供」していることを知らされていないのだから、「除外申請」のしようがない▼なぜ「閲覧」しか認めないのか？▼きっかけは故安倍首相の国会答弁。それを受け、2020年12月18日に閣議決定がなされ、2021年2月5日に防衛省と総務省の連名で、各都道府県あてに「通知」が出された。それには、防衛大臣は自衛官募集に関する資料の提出を市区町村の長に対し求めることができること、住民基本台帳の一部の写しを用いることについても、住民基本台帳法上、特段の問題を生ずるものではないことが書かれている。その結果、600以上の自治体で住民基本台帳の一部の写しの「提供」が行われている▼住民の命と暮らしを守る最大の役割である地方自治体は、個人情報防衛省に「提供」すべきではないと考える。
(新)

第二代我孫子市長 渡辺藤正さんのこと(中)

今回は渡辺藤正さんの政治姿勢について触れてみたい。「市民重視」の視点が際立っていると思えるからである。

1980(昭和55)年我孫子市は人口が10万人になった。これを受けて渡辺藤正市長は「市民の手による市民のための市民憲章」の制定を提案した。そして自らも憲章制定協議委員会に一委員として加わった。

そして市民に憲章文の提案を求め、市民から730点の応募があった。それらをもとに憲章文を作成し、翌81年1月「我孫子市市民憲章」が制定された。憲章文それ自体は普遍性のある文言で、際立って特徴のあるものではないが、示したように制定過程に市民参加がしっかりと位置づけられていたのである。

それから、80年10月からは「市民との対話集会」を市内7か所で開催し、また82年3月には市内6中学の2年生12人と対話集会を行うなど、若い人たちの意見を取り入れる姿勢を示していた。こうした考え方はこの時期我孫子市の重要課題となっていた手賀沼汚染問題の集會でも、専門家、漁業者、行政担当者だけでなく、市民のかかわり

を求め、さらには高校生代表をパネリストとして参加させている点にも現れていた。

1983年1月、4期目の当選を果たすと7月には総合計画策定作業を開始した。ここで注目されるのは総合計画策定にあたって市民の率直な意見を反映させるために、まちづくりに関するアンケートを3回実施したことである。



さらに注目されるのは、実施された3回の市民アンケート結果を市の職員が分析して、それを『広報 あびこ』に5回にわたって「あびこ白書」として掲載している点である。

84年9月16日号に「あびこ白書」の第1回が掲載されるのであるが、それは「市民生活」という項目だからはじまっている。冒頭で21世紀を展望する基

礎づくりとして新総合計画の策定を行うが、「まちの主人公である市民のみなさんの意見を十分反映したい」としたうえで「この『あびこ白書』は市の職員が作成し、市民代表からなる総合計画審議会に検討していただいたもの」であると記している。

その後「生活基盤」、「都市基盤」、「行政と市民」に関する分析を行い、最後に「あびこらしさ」という項目で「白書」をまとめていく。これらの分析と叙述は、専門家任せではなく、市職員が市民アンケートを分析して作成したという点に特徴がある。

この「あびこ白書」が作成された84年度の渡辺市長の所信表明は「憲法を心とした都市づくり」、「市民本位の行政」を理念として新総合計画の策定、市民参加の行政を推進することを力強く述べている。

そして新しい総合計画は翌85年12月に策定された。(竹)

教員不足 SOS!!

2月10日に行われた「子どもを平和の中で育てよう我孫子市民の会」主催の教育懇談会で、現職の教員の方々から、「教員が足りない！増やしてほしい」という切なる訴えがなされた。

今や教員配置は全国的な問題となつていく。年度当初からの教員未配置や産休や病休の代替教員不足のため教務主任や教頭も担任をもつこともあるという。

声高に働き方改革が言われているが、仕事量は増えるばかり。ICT教育、金融教育、介護サポーター教育、小5、小6の英語の教科化などなど。80時間以上の残業をしている教員もいるという。我孫子市の教員未配置数は、令和2年度11人、令和3年度9人、令和4年度14人。文科省は県に人材バンクの情報提供をしているということだが、市には県教委からその情報は届いていないとのこと。

ある時、ある学校の校長に「何を一番望みますか？」と尋ねたら、「教員の数を増やしてほしい」とおっしゃっていた。管理職も一般教員も望むことは同じ。子どもと直接かわる教員を増やしてほしいということである。教育は人と人とのつながりの中で成り立つ。

正規の教員をしっかりと年度当初に確保することは政治の責任である。子どもと先生がゆったりと過ごせる学校をつくるために今、何が求められているかみんなで考えて行きたいと思う。(新)

この人に聞く 梶縄茂雄さん (2)



27歳の若さで独立した梶縄さん。市川市平田での店は繁盛していた。しかし市川の店は貸店舗だったので、別の場所で自分の家での仕事をしようと決めた。

我孫子への出店は不動産会社の紹介によるもので、知らない町だったが、東急の団地ができるというのでつくし野で開店することを決めた。また、我孫子はつくし野学園都市、成田空港に近接し、首都東京の物流基地ということも頭の中にあつた。昭和47年のことで、この時すでに結婚はしていた。

我孫子でもソバ屋の経営はうまくいき、店員も雇っていた。昭和50年には土地を購入し、店員の部屋、作業倉庫も拡大した。そうしたことから昭和58年、取手の東急レストラン街に出店することにした。出店の保証金として1000万円支払うなど多額の借金をして出店した。こうしたレストラン街への出店は、テナント料3割、人件費3割、材料費3割、そして利益は1割というものだった。開店して2年目売り上げが2割落ち、先が見えないので昭和61年、借金を抱えながら閉店した。その後つくし野店で商売を続けたが、5年前に漏電が原因で出火した。そして火事で50年にわたって集めていた蕎麦に関する資料も燃えてしまった。

つくし野店で商売を続ける間、税金などの相談で柏の民主商工会(民商)の世話になった。その縁で柏民商に入会し、地域のみならずとも一緒に活動することになった。

平成12年、屋号を「代々木庵」から「ソバ玄」に変えた。蕎麦についての情熱と生きる喜びを感じるためであった。ソバ玄では全層粉を使用して十割蕎麦を打つことにした。ソバ玄は究極のソバ打ちを目指している。蕎麦と蕎麦打ちに関する情熱は変わらない。話を聞いて梶縄さんは、「根っからのソバ職人である」ということが伝わってきた。(梶縄さんの項 おわり)